ひろば

Vol.130　2015.03.24. 発行
東京工芸大学同窓会
http://www.t-kougei.gr.jp
発行人：田沼　武能
〒164-8678
東京都中野区本町 2-9-5
TEL & FAX　03-5371-2732（事務局）
e-mail: dousoukai@t-kougei.gr.jp

卒業制作展　実行委員長
田　邊　順　子

卒業制作展2015

今年度の卒業生たちは、震災の年の入学生です。2011 年の４月に行われるはずだった入学式は中止となり、彼らにとっては、おそらく不安を抱えての大学生活のスタートだったのではないでしょうか。

今回の卒業・修了制作展は、その彼らの４年間の様々な思いが込められた作品が並びました。各学科によってメディアや表現は違いますが、それぞれに精一杯の力で作り上げた作品に触れていただいた多くの来場者の皆様に、きっと学生たちのその熱い思いが伝わったことと思います。

会場では、すでに社会に出た先輩たちが、いろいろと意見を言ってくれたり、激励の言葉をかけたりしています。これは例年よく見かける光景なのですが、今回私は、その様子を見て、どのような厳しい状況があっても、学生たちは一生懸命に学び、制作し、そして大学という場を通して未来を繋げていっているのだと感じ、あらためて卒業・修了制作展の意義というものを実感いたしました。

卒業にあたって

■写真学科　　関口　萌

あっという間の四年間でした。いま、四年間のことをまとめようとしているのですが、たくさんの大学でのできごとが思い出され、なかなか手が進まないでいます。

写真というひとつのものからたくさんのことを教わりました。そして様々なことがはじまりました。大切な友人も、尊敬できる先生にも出会えました。写真という存在が私の人生の大きな歯車になってくれました。その歯車は私の望みとは反比例してぐんぐんと一年一年を加速させていきました。そのすべてを写真は見守っていてくれたように思います。

四年間というものは人生の長さからみると小さなものなのかもしれません。しかしそこから得たものはその小ささからは想像できないものばかりでした。

四月から社会人となります。期待や不安の気持ちがあります。大学入学前もそんなようだったなと思い返しています。環境こそ違いますがこれからはじまる様々なこともまた私の人生の歯車となっていくことと思います。

出会ったすべての人に感謝しています。ありがとうございました。

卒業にあたって

■映像学科　　佐久間　愛

私は大学で、信頼できる友人を得、自分を信じて行動することの大切さを学びました。友人の影響で私は全く縁のなかったダンスを始め、小学生のためのクリスマス会開催や大会への参加など、多くの新たな挑戦をしました。新たな挑戦は成功するとは限らず、やらなければよかったと思うこともあります。私も大きな挫折をし、挑戦を後悔したことがありました。しかし、信頼できる友人がいたことで挫折を乗り越えられ、友人の大切さを再確認できました。失敗した経験で、より豊かな考え方のできる人になれたとも思います。また、映像を学ぶ中で私は、他業界で就職することを決意しました。決意後、何のために映像を学んでいるのだろうと悩んだ時期もありましたが、多くの授業を履修し、どの授業も全力で取り組みました。

その結果、良い成績を収めることができ、学科代表で企業の方や高校生へプレゼンテーションする機会をいただきました。前向きに努力することで、チャンスが訪れることを実感できた印象的な出来事です。

映像学科では自分を見つめ、伝える相手を考えることを幾度もします。授業を通して人の気持ちをこんなにも考えることは、他大学にはない魅力だと思います。就職活動で、有名大学の人に勝る学歴や知識は私にはありませんでしたが、考え方や行動力には自信がありました。大学での経験と悩み考えたことで得た人間の厚み、チャレンジ精神をアピールすることで、他業界でも納得のいく就職活動ができました。

私は４年間で、条件や環境が自分に適していないと感じていても、自分次第で道を開くことができると学びました。自分の思っている以上に自分には可能性があり、チャンスを無駄にすることは勿体ないと思います。卒業後も４年間の経験を糧にし、様々なことに挑戦していきたいです。

■デザイン学科VC コース　　千葉　紘香

私は小さい頃から絵を描くのが好きでした。

高校までを岩手の田舎で過ごした私は、絵を描いては怒られていた記憶が多く、東京工芸大学に入学してから、デザインの勉強と絵を描いもいいという驚きの毎日で、東京での大学生活が新鮮で楽しくてしかたがありませんでした。

また、この4 年間は、入学直前に起きた東日本大震災からの4 年間でもありました。

私は故郷である岩手県大船渡市で被災しました。両親は震災直後の混乱の中にもかかわらず、私を東京へ送り出してくれました。

「私だけこんなに楽しい毎日を、あたりまえのに過ごしていいのか」

私は、憧れだった芸術の勉強をする中で、私のあり方、デザインや芸術のあり方について未熟な考えながらも、生まれつづけた疑問を持ちつづけました。

卒業する今でも持つその疑問は、私にとって、ものづくりにあたっての、大きな、漠然とした題目となります。

解決しきれない問題を考えていた在学中に、学内の友人と１年次に学生東北支援団体Lproject を立ち上げ４年間、岩手県大船渡市で活動を続けることができました。

また、素晴らしい先生方に恵まれ、作品制作も精一杯に取り組むことができました。大学での講義や実習を基盤に、外へ外へと向かっていけた４年間だったと思います。

これまで、東京工芸大学の先生方をはじめ、友人、学内外の方々など本当に素敵な縁に恵まれました。本当にたくさんの方々の支えで卒業までを過ごすことができたと思っております。

私は工芸大で過ごした４年間で、かけがえのないものを見つけることができました。

指導してくださった先生方、力の源となる友だち、そして家族、私に関係してくださった方々に厚く御礼申し上げます。

本当に素敵な４年間をありがとうございました。

■デザイン学科HP コース　　石積　麻季

入学式が無かった私たち。買っておいたスーツも着る予定が無く、新入生ガイダンスから始まった。最初の印象は大丈夫かなぁ？から始まったこのクラスも、今では毎日学校に入り浸り、下らないことで笑いあい、イベントや行事などをたくさん行うまでになった。１、２年の厚木キャンパスは、毎日自宅から約2 時間半通学にかかり、１限から課題がある時は終電まで学校にいて、土日はバイトというハードスケジュールをこなしていたこともあった。(その代わり、個人的に郊外学習という名目で授業を休んだこともあったなぁ…)

今日、卒業制作展の作品の搬出作業が終わった。あんなに大きい作品を作ったのは初めてでした。今思うと、うだうだ考えていなければ…、もっと早く作業出来ていたらこういう風に出来たのではないか。などと、思ってしまうが、４年間の課題の進行具合を見るとこれが私に適切な進め方だったのでは？と思う。

４月から新社会人として、仕事をすることになるが、大学４年間のことは色濃く記憶に残っていくと思う。友人、先生、課題のこと、就活…。卒業するという実感はまだないが、パソコンに入っている４年間の写真を見返すと楽しかった！！とはっきり言える。楽しかったよー！！！またね。

■デザイン学科DC コース　　佐川友里恵

思えば入学当初の私は、好きなことに関しては力を尽くす。けれども苦手なこと、興味の無いことに関しては断固逃げ切ろうと、もがく。ムラが多いくせにプライドだけが高くて、どちらかと言えば出来の悪い学生でした。

そんな私が変わり始めたのは、フリーランスのデザイナーを名乗り大学とは異なる世界に足を踏み出し多くの人と関わりはじめた頃からです。今思えば、みじめな自分を変えたくて足を踏み出したのかもしれませんし、ただの逃げだったのかもしれません。とにかく、人々と正面から向き合うために「その瞬間を精一杯頑張ること」を意識し行動し始めました。そしてそれはやがて私自身の特長となり、4年間の集大成となった卒業制作では、大きな賞をいただきました。

あらためて俯瞰して見てみると、逃げたかったはずの大学には私を不幸へ追い込む要素なんてひとつもありませんでした。魅力的な先生方や友人、充実した設備、専門的な講義や実習。どれもが私の力になるものばかり。私を追い込んでいたのは、怠惰な私自身だったのだと、いつしか気付きました。

「その瞬間を精一杯頑張ること」、大学生活で学んだ大切なことを胸に、これからは社会で頑張ります。

■アニメーション学科　　宮本安祐佳

大学3年生までの私は、友人と遊び、サークル活動を楽しみ、これといった目標もなく、ただがむしゃらに授業で出された課題を消費するだけの“大学生”という立場にとことん甘えた学生生活を送っていました。この学科で、映像やデザインについて学びたい、アニメーションを作ってみたい、そんな強い想いはいつしか曖昧なものとなり、私の生活の隅の方に追いやられていたような気がします。

大学3年の夏、学生生活の半分以上が過ぎたと知ったとき、これといった作品も残してこなかった自分の不甲斐なさに愕然としました。その頃、課題のために偶然参加したイベントで出会ったのが、将来に繋げたい関係を築き上げることになる大切な仲間と“CM 制作”でした。正直そのときはCM 制作がどのようなモノなのかまったく想像できず、30 秒という限られた枠の中で“伝えるべきもの”を的確に映像として表現しなければならない難しさに対する漠然とした不安しかありませんでした。しかしあてもなく悩んで心折れていた自分を、無為に過ごした3 年目の夏までを振り払いたくて、CM 制作に挑戦する事を決意しました。

数ヶ月に渡り、終電近くまで行われた企画会議、数日がかりの撮影、長時間にも及ぶ編集作業に取り組む中で、締め切りが迫り、必死で過ごす中に確かな充実感も感じている自分がいました。

この挑戦が、2千人規模で開催されたイベントの運営に携わることになったり、結果として最優秀賞を頂いたCM 制作コンテストに応募するきっかけになるなど、様々なチャンスに繋がり、以前よりひとまわりもふたまわりも自分の世界が広がって、最高の時間と胸が高鳴る経験をすることができました。

就職活動においてもたくさんの経験をしましたが、結果的に充分納得のいくTVCM の制作会社に内定を頂きました。この舞台に立って、自分には何が出来るのか、何がしたいのか。それから目を離さず、常に生きていく幅を広げていきたいです。

アニメーション学科で身につけたことは私にとって間違いなく新たな一歩を踏み出すきっかけとなり、学生生活を通して学んだ全てのことは自分の人生の伏線となりました。社会人を目前にした今、言えるのは“学生時代が人生の最高の時間だったなんて言いたくない。圧倒的に長い残りの人生の中で、学生時代に体感した興奮や感動を圧倒的に越える生き方をしたい”ということです。

■ゲーム学科　　鳥居　文香

大学生活は挑戦の連続でした。そもそも高校生の頃は写真や日本画の道を考えていましたが、作品展示の機会を経て、見てもらうだけではなく自分のデザインを使って遊んでもらうことに興味を持ち、大学でゲームを学べる工芸大を選びました。正直、入学当初は物珍しいこの『ゲーム学科』に通うにあたり、世間の目に対する羞恥がありました。しかし、だからこそまずは公の場で評価されるゲームを作り、自他共に認められるようになった上で、ゲーム業界で働きたいという強い志を持つことができたと思います。

私は人と交流を持つことが得意ではありませんでしたが、ゲーム制作ではチームワークが必要不可欠です。そこで、荒療治にと学外にも出てプロの方や他校の学生との交流を広げたことが視野を大きく変える一歩となりました。以来、失敗をしても必ず次の成功に繋げようと、慌しい毎日でした……振り返れば、その積み重ねは確かに私の血肉となっていたようです。

ゼミで制作したゲームは日本ゲーム大賞アマチュア部門最終選考で惜しくも受賞を逃してしまいました。その反省をバネに福岡ゲームコンテストでは優秀賞を受賞することができました。この時、福岡の商業施設で試遊ブースが設けられ、一般の方々がゲームに触れて下さり「斬新で面白い」「もう一度遊びたい」などの言葉をいただき、作り手として最高の喜びを味わいました。また、文化庁メディア芸術祭でもプロに並び選出されるなど、結果が実を結ぶ中で少しずつ『ゲーム学科』を選んで良かったと思えるようになりました。

ゲーム制作で「答えのない新しいアイデアを、仮説を立て試行錯誤し、それを実証する」ことを学びました。四年間の制作を乗り越え卒業を迎えた皆様にとって、今後どの道に進むにせよ礎として活かされるのではないでしょうか。私に成長の場を与え、助けて下さった全ての方々とのご縁・環境に感謝しつつ、今度は自分がプロとして経験を積むことで、次にゲーム業界に入ってくるひとに挑戦の場を与えられるような存在になりたいです。

＜インタラクティブメディア学科、マンガ学科は入稿ありませんでした＞

卒業制作展 2015

写真学科
Department of Photography

映像学科
Department of Imaging Art

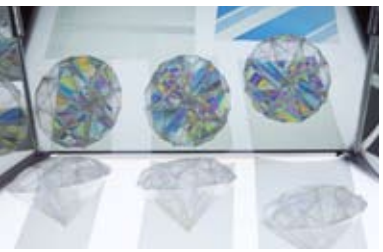
卒業制作展 2015

デザイン学科VC

Department of Design, Visual Communication Course

デザイン学科HP

Department of Design, Human Product Course

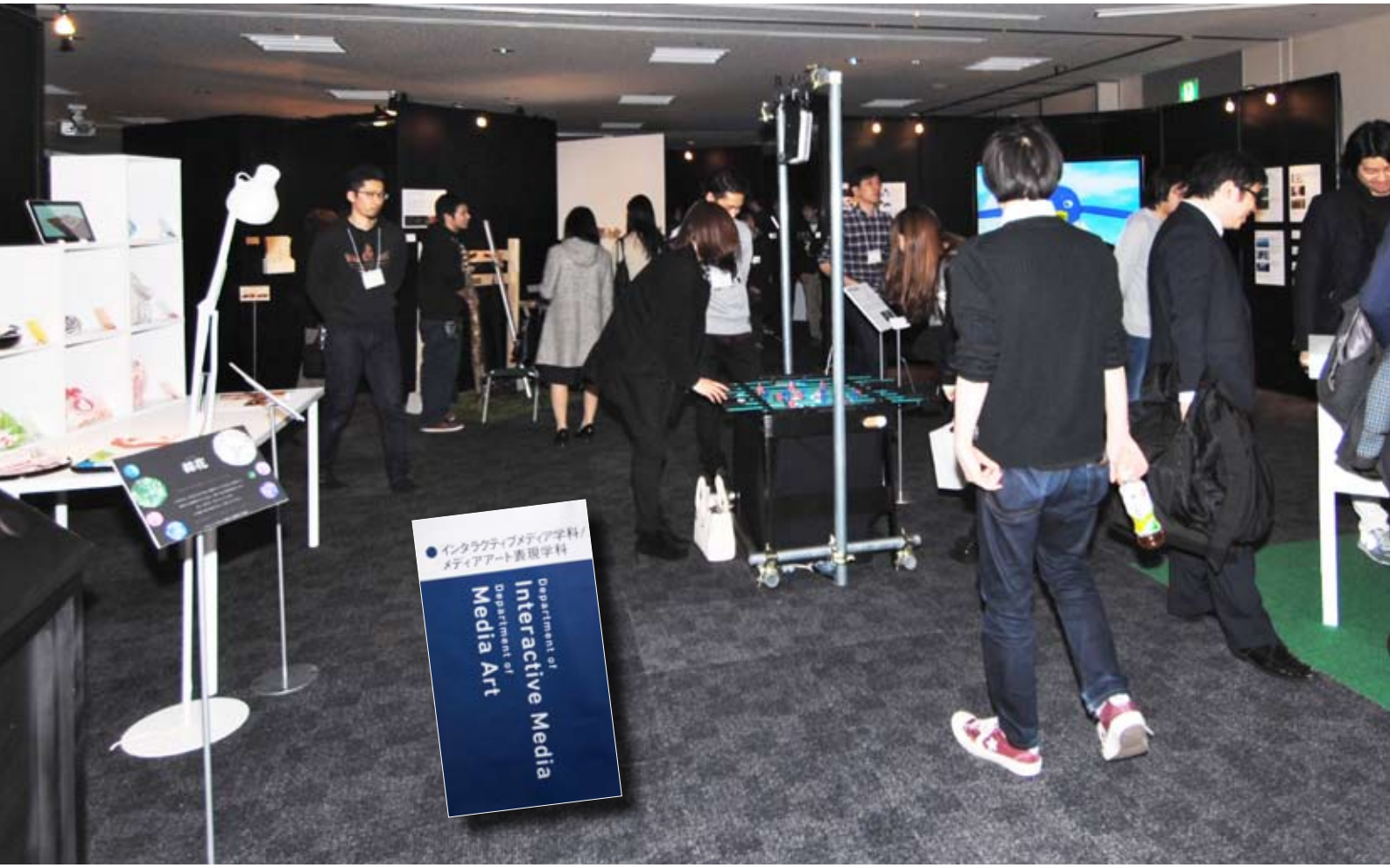


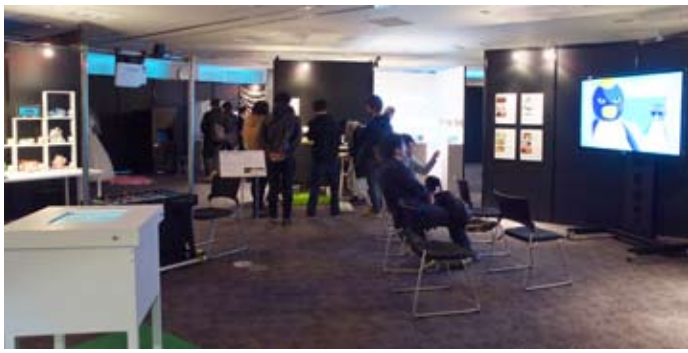
卒業制作展 2015

デザイン学科DC

Department of Design, Digital Communication Course

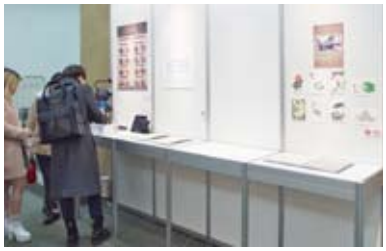
インタラクティブメディア学科
Department of Interactive Media





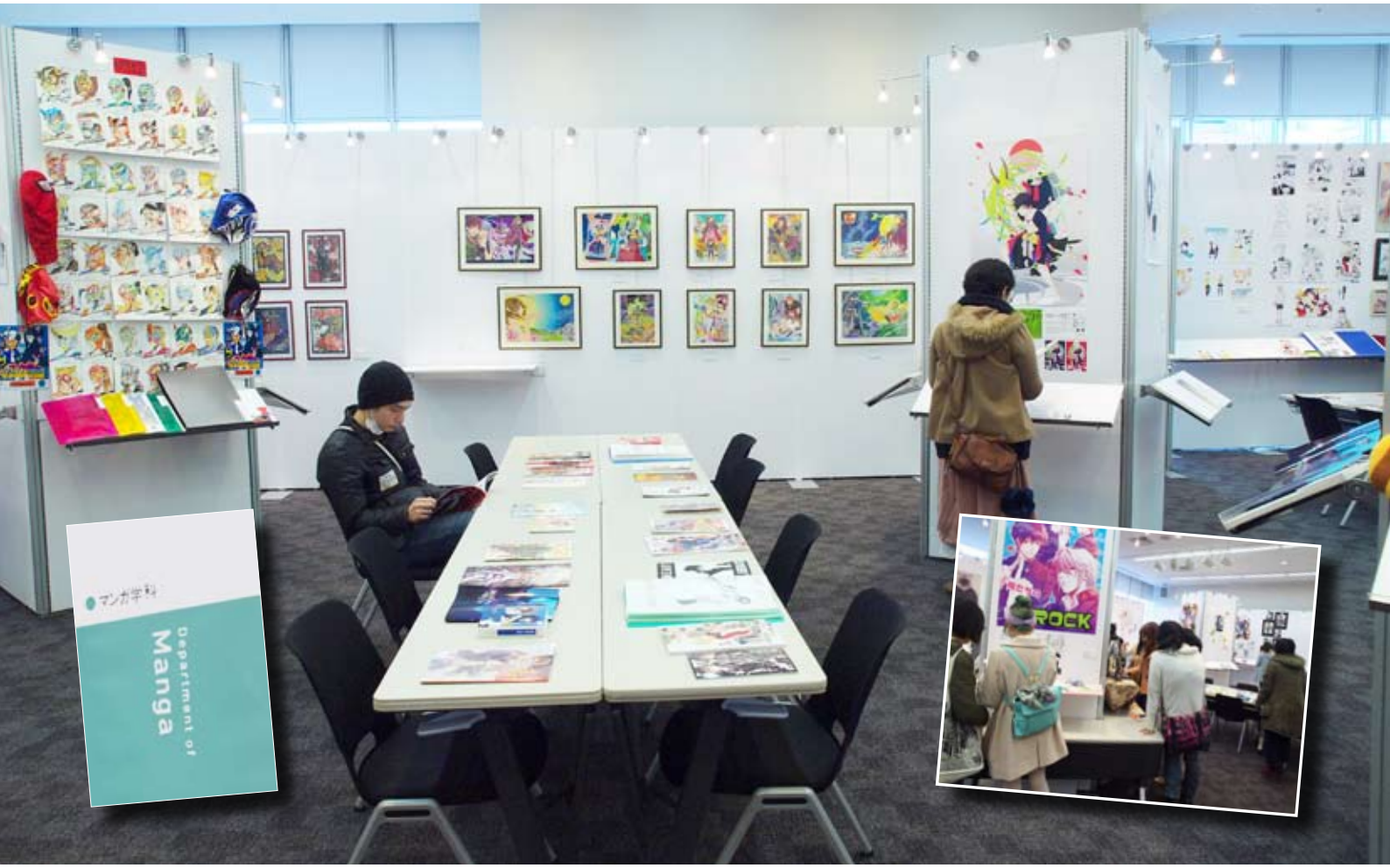
卒業制作展 2015

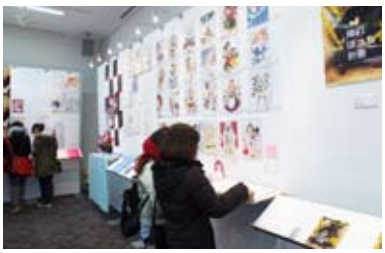
アニメーション学科
Department of Animation



ゲーム学科
Department of Game

マンガ学科
Department of Manga





大学院芸術学研究科
Graduate School of Arts, Master Course

写真メディア領域
映像メディア領域
デザインメディア領域
デジタルメディア領域
アニメーションメディア領域
ゲームメディア領域

第４回同窓会韓国支部総会を終えて

今年で東京工芸大学同窓会韓国支部の４回目の総会と５回目同窓展示会を終えました。

今回の総会と展示会には畑先生と田村先生が参加して下さいました。また、映像学科の李容旭先生もご一緒でした。

今回の展示会には私たちの同窓イ・スジンさんが勤めている、朝鮮王朝の宮殿であります、景福宮（キョンボックン）のそばに位置したギャラリー ON で２月 12 日～22 日まで「花咲いて散って」というテーマで畑、田村先生をはじめ同窓生、学生の６人が参加しました。

展示会を重ねるごとに新しい卒業生が共にして量的質的にも成長する同窓会になることを願うばかりではありますが、実現にはいましばらく時間を要する思いでございます。

最初の展示を準備しながら感じた楽しさや後輩たちに助けになろうとしていた展示の目的を忘れないようにしたいと思います。

写真の方に力を入れているメンバーは、さらに能力を広げていただき、今では写真ではなく、他の分野の道を歩いている会員の方にも若い頃の写真への情熱と渇望に満ちていた母校での生活を再度思い出して覚えていただきたいです。

今後５年、合計 10 回までは多難な道ではありますが、導いて参りたい所存であります。

毎年参加してくださる先生方や関心と激励を送ってくださる同窓会の皆様、そして総会と展示準備のために助けてくれた卒業生の皆様にはお礼申し上げます。

そして、３回目の展示時に学生として参加していた後輩たち皆が卒業後、日本で進学や就職することになったというニュースに大変喜んでおり、先輩として応援のエールをお送りします。

올해로 동경공예대학의 4 번째 총회와 5 번째 동문전시회를 마쳤습니다 .

이번 총회와 전시회에는 하타선생님과 다무라선생님이 참가해주셨고 ,

영상학과에 이용욱선생님이 함께 해주셨습니다 .

이번 전시회는 우리동문 이수진님이 근무하고 있는 , 경복궁 옆에 위치한 갤러리 ON 에서

2 월 12 일 ~22 일 까지 ' 꽃 피고 지고 ' 라는 테마로 선생님 두분과

졸업생 6 명이 참여하여 전시를 하였습니다 .

전시회를 거듭할수록 새로운 졸업생들이 함께하여 양적 질적으로도 성장하는 동문회가

되기를 바라는 마음이지만 쉽지 않는 현실입니다 .

첫 전시를 준비하면서 느꼈던 즐거움과 후배들에게 도움이 되고자 했던

전시의 목적을 잊지 않았으면합니다 .

사진쪽에서 힘쓰고 있는 회원들은 더욱 역량을 넓혀주시고 ,

지금은 사진이 아닌 다른 분야의 길을 걷고있는 회원분들도

젊은 시절 사진에 대한 열정과 갈망으로 가득했던 공예대학 시절를

다시 한번쯤 기억해주시기를 바랍니다 .

앞으로 5 년 . 총 10 회까지는 어렵더라도 이끌어 가려 노력하겠습니다 .

매년 참가해주시는 선생님 , 관심과 격려를 보내주시는 동문회 여러분들 ...

총회와 전시 준비를 위해 도와주신 동문 여러분께 감사드립니다 .

그리고 3 회 전시 때 재학생으로 참가했던 후배들 모두가 졸업후 일본에서

진학이나 취업이되었다는 소식에 기쁜 마음으로 응원을 보내드립니다 ~

동경공예대학동창회한국지부장 한승탁

東京工芸大学同窓会韓国支部長　韓 承卓 （ハン　スンタク）（73 期）

同期会だより

第34 期　写真工業科・同期の集い

写真工業科第34 期生　平成26 年度　同期の集い
新宿「木曽路」 H26.12.13.

毎年 12 月の第２土曜日を同期会の日と定め、以来絶えることなく開催してきた結果、何んと 32 年目（33 回目）を迎えるに至りました。

今回も、相沢忠勝・末次祥宏の両氏が幹事となり、新宿三丁目の「木曽路」での開催となりました。

同期の仲間は 52 名ですが、この１年間に３名もの不幸に接するなど、誠に残念な面もありましたが、結果的には前回より１名増の 15 名の出席となりました。

短かい時間ではありましたが、再会を喜び、学生時代の昔話や現況報告に花が咲き、大変楽しい時間を過ごすことが出来ました。

次回は本年 12 月 12 日(土)13 時から、今回と同じ「木曽路」で開催します。同期生一同は、その日のためにも体調を整え、元気でお会いいたしましょう。

川名　晴美（34 期）

訃　報
（敬称略）

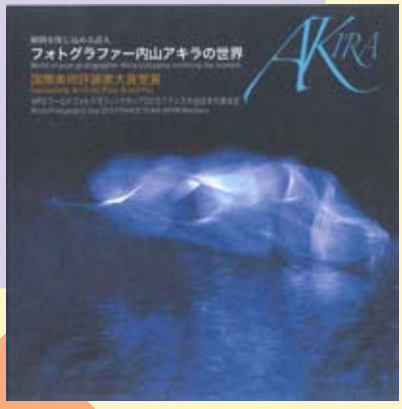
和田啓滋	（第 17 期・写真芸術科）
今木偉郎	（第 34 期・写真技術科）
磯野泰彦	（第 34 期・写真工業科）
田村豊弘	（第 34 期・写真工業科）
神林清一	（第 34 期・写真工業科）
佐々木　章	（第 36 期・写真技術科）
荒木輝夫	（第 38 期・写真技術科）
三宅秀治	（第 42 期・写真工業科）
中込孝之	（第 43 期・写真印刷科）
酒井洋一	（第 45 期・写真印刷科）
石川たけみ	（第 51 期・写真技術科）
梅田良治	（第 51 期・写真技術科）
山縣陽一	（第 52 期・応用写真科）
墨崎　匠	（第 55 期・写真技術科）

編集後記

私が短大２年の 1969 年に旧２号館の建てかえ工事が行われ、１年に亘り騒音と振動に悩まされた。それが昨年２月末に完工した中野キャンパスリニューアルにより跡形も無くなって昔の姿は一ヶ所も見られなくなった。厚木キャンパスも最初の２階建て１号館・２号館は最早なく時の流れを感ぜざるを得ない。私は短大の出身で卒業と同時に助手として大学に勤務した最後の人になり、３月末で退職と相成る。夫婦共々同窓生なのでこれからも同窓会との繋がりはあるが大学からは離れるつもり。学生から 47 年間、絶えず 20 歳前後の若い人たちと接してきたので、これからは一気に老けるかも知れない。それだけが一寸怖い気がする今日この頃である。

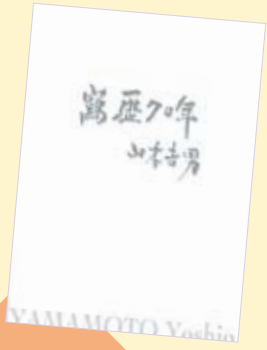
広報委員長　福村　敏（45 期）

ひろばのページ



フォトグラファー内山アキラの世界
国際美術評論家大賞受賞
WPC ワールドフォトグラフィックカップ 2015
フランス大会日本代表決定
内山　晟（43 期）

細江英公「薔薇刑」展
一度ミシマを忘れるために
中央区築地 1-8-4
築地ガーデンビル2F
2015 年3月5日～ 16 日
3月 18 日～ 31 日
AM11：30 ～ PM 6:00
細江　英公（29 期）



山本　吉男（24 期）

筒井文那　個展「かみのみこ」
アートコンープレックス・センター
新宿区大京町 12-9
2015 年2月 10 日～ 15 日
AM11：00 ～ PM8:00
筒井　文那（89 期）

森のなか
村田なつか Exhibition
新宿マルイアネックス3F
新宿区新宿 3-1-26
2015 年2月 13 日～ 25 日
村田　夏佳（89 期）
※ 2015 年2月 15 日～3月8日
有楽町 Loft POP BOX へ出展します。

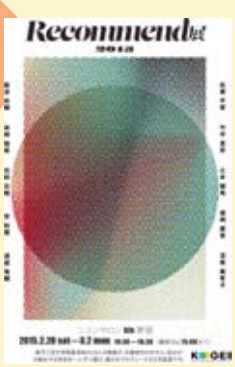
「不定愁訴」
梓川アカデミア館
長野県松本市梓川倭 566-12
2015 年4月8日（水）～4月 13 日（月）
AM10：00 ～ PM5:00
萱森　博明（52 期）

佐伯剛規企画「和想」
ペーターズショップアンドギャラリー
渋谷区神宮前 2-31-18
2015 年1月 23 日～2月4日
遠藤ゆりこ（86 期）　大地咲穂（87 期）、他

Recommend 展 2015

「東京工芸大学芸術学部写真学科 Recommend 展 2015」が、平成 27 年 2 月 28 日～ 3 月 2 日ニコンサロン bis 新宿で開催されました。ニコンサロン bis 新宿では平成 25 年から、2 月下旬～ 3 月下旬の期間に「卒展」と題して 3 ～ 4 日ごとに写真関係大学・専門学校の卒業制作展を開催しています。工芸大写真学科は、「全教員が卒業制作の中から自分が薦める学生を 1 人ずつ選び、展示をプロデュースする」というコンセプトで展示を展開しています。それぞれの教員が、選出した学生の作品のセレクションから展示までサポートし、次世代を担う期待の若手写真家たちの感性にあふれた作品を展示しました。

上田　耕一郎　（75 期）



東京工芸大学芸術学部写真学科
肖像写真研究室　作品展 2015
2015 年2月 12 日～2月 18 日
会場　ポートレートギャラリー
新宿区四谷 1-7　日本写真会館5階

出展者
伊藤　恭 / 北崎貴士 / 魏子涵 / 小久江貴史
佐藤柚美 / 猿渡恵 / 志村美優紀 / スサントジョアニタ
辻本健馬 / 蛭田真渚 / 吉成真優